EU Trends

ハンガリー総選挙でオルバン圧勝

発表日：2018年4月9日（月）

～中東欧の反ＥＵの盟主～

第一生命経済研究所　経済調査部
主席エコノミスト　田中　理
03-5221-4527

◇ ハンガリーの総選挙は、オルバン首相が率いる保守政党が議会の３分の２を占める圧勝。憲法改正に必要な議席を確保し、権威主義的な国家運営に拍車が掛かる恐れがある。今後、難民の受け入れ拒否や司法・メディア・教育機関などへの介入を巡り、ＥＵとの対決姿勢が一段と強まる可能性がある。近隣の中東欧諸国を巻き込んで、東西ＥＵ間の亀裂が深まることが不安視される。

８日に行なわれたハンガリーの国民議会選挙（一院制、定数199、小選挙区・比例代表並立制＜うち106が小選挙区、93が比例代表で選出＞、議席獲得には最低５％の比例票が必要）は、オルバン首相が率いる保守政党・フィデス（Fidesz）と同党と連携するキリスト教民主国民党（KDNP）の現与党（以下、フィデスで略す）が50％近くの比例票を獲得。事前に接戦が伝えられた小選挙区の多くを制し、133議席を獲得して圧勝した模様。フィデスの勝利は広く予想されていたが、２月末の地方選挙で同党の候補が野党勢が推す独立系候補に敗れたこともあり、憲法改正や重要法案の可決に必要な３分の２以上の議席獲得には至らないとの見方が有力視されていた。かつての極右政党で中道・穏健化路線を敷くヨビック（Jobbik）が26議席、ハンガリー社会党（MSZP）とリベラル系政党の連立会派が20議席で続いたが、フィデスが３分の２を上回る議席を占めた。野党勢は都市部で善戦したが、難民受け入れ拒否を前面に出し、メディアを支配するフィデスが地方で圧倒的な支持を集めた。これにより、議会選ら30日以内に召集される次期国民議会において、オルバン首相の３期続投と４回目の首相就任が確実となった。

フィデスの獲得議席は2014年の前回選挙時と同じ133議席。前回選挙後の補選で議席を失ったため、改選前の131議席から２議席を上積みした。投票率は70％を超え（前回は61.7％）、2002年（70.5％）を抜き、民主化後の過去最高を更新した模様。高い投票率での与党の圧勝は、イスラム系難民の受け入れに反対し、欧州のキリスト教社会の守護者を自任するオルバン首相の政権運営が、ハンガリー国民から広く支持されたことを意味する。オルバン氏はかつて、共産党支配下でリベラルな運動家として政界に登場したが、近年は右傾化を強めている。2015年秋に欧州難民危機が深刻化した際、オルバン政権はセルビアとの国境に有刺鉄線を張り巡らせたフェンスを築き、ＥＵの難民受け入れ分担を拒否した。今後も世論を盾に、難民の受け入れ拒否や司法・メディア・教育機関・ＮＧＯなどへの介入を巡って、ＥＵとの対決姿勢を一段と強める可能性がある。議会の圧倒的多数を確保したことで、与党に都合のよい選挙制度改正や司法介入、さらには首相の権限強化などに着手するかに注目が集まる。また、オルバン氏の勝利は、近隣の中東欧諸国で広がる権威主義的で国家主義的な政権運営を勢いづかせることも不安視される。

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。